

神戸市北野異人館地区における土砂災害に関する防災意識アンケート調査（2）

神戸市立工業高等専門学校 専攻科 ○山根綾美
神戸市立工業高等専門学校 鳥居宣之

1. はじめに

本研究室では神戸市の観光地の一つであり、観光地と住民地区が共存している北野異人館地区（以下、北野地区と称する）に着目し、当該地域での土砂災害に関する被害軽減方策を検討している。前報では、北野地区の観光・商業施設で働いている人を対象としたアンケート調査¹⁾を実施し、土砂災害に対する防災意識が高いことが判明している。本報では、北野地区の居住者の土砂災害に対する防災意識を調査するため、防災意識アンケート調査を実施した。

2. 防災意識調査の実施

2.1. 防災意識アンケート調査実施概要

アンケートは土砂災害のソフト対策に着目し、観光地における豪雨に起因する土砂災害の被害軽減方策の提案を行うための要因を検討することを目的としている。アンケートの調査内容を表-1に示す。対象地域は、神戸市中央区北野町、山本通、中山手通、加納町（図-1参照）の住宅、約470軒（今回は、戸建て住宅のみを対象）であり、アンケート用紙は、平成27年12月5日から10日に手渡しおよびポストイングによって配布し、後日郵送にて回収を行った。なお、回収時に地域ならびに土砂災害警戒区域内外が分かるようにアンケート用紙を配布した。

2.2. 防災意識アンケートの回収状況

アンケートの配布数と回答数から求めた回答率は30%となり、必要標本数123件に対し、回答数138件であったため、アンケート回答の信頼度は比較的高く得られたと思われる。

表-1 アンケートの調査内容

質問内容		
回答者の基本属性	・性別、年齢、住まい	など
土砂災害に関する基礎調査	・防災の関心度 ・『土砂災害警戒区域』の認知度 ・避難所の認知度 ・近年の土砂災害被害に対して	など
北野地区の今後の防災対策について	・今後の防災対策として必要なもの ・地域連携のとれた防災対策の実施について	など

2.3. 防災意識アンケート調査の結果整理・分析

1) 回答者の基本属性

回答者の基本属性に関する回答結果から、約70%が女性（内、40代から80代の専業主婦層が半数）であり、普段、家（北野地区）に居る人たちからの回答が多かったといえ、また、回答者の約70%が土砂災害警戒区域内に居住している（図-2参照）。

2) 土砂災害に関する基礎調査

土砂災害に関する基礎調査では、回答者がどれほど土砂災害防災への認識を持っているかを調査した。回答結果の主なものを図-3、4に示す。なお、地域ごとの特徴はほとんどみられなかったため、土砂災害警戒区域内と土砂災害警戒区域外に分けた結果を示すことにする。

図-3より、ほとんどの住民が北野地区内に土砂災害警戒区域が指定されていることを知っているが、土砂災害警戒区域内に住んでいる人でも約10%は認



図-1 アンケートの配布範囲

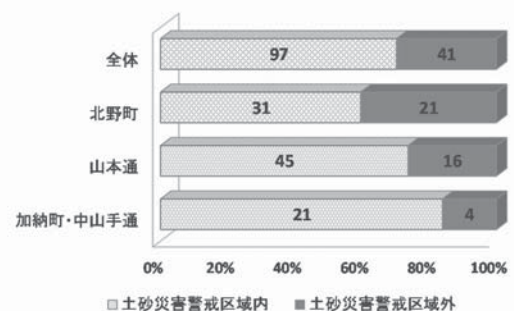


図-2 住居の土砂災害警戒区域内訳 (n=138)

知していなかったことが分かる。今後も周知に力を入れていく必要があるといえる。

図-4より、避難経路の複数所持者は、土砂災害警戒区域内の居住者が約65%、区域外の居住者が約50%であり、区域内の居住者の方が避難に対する意識が高いことが分かる。複数所持できない理由として、「道が複雑」、「道が狭い」といった北野地区特有の問題があげられている。緊急避難時に想定避難経路の使用が不可能となった際には、観光客も滞在しているため、避難がスムーズに行えない危険性を含んでいるといえる。また、土砂災害時の避難所として最も多かった回答は、「海外移住と文化の交流センター」であった。しかしながら、「海外移住と文化の交流センター」は土砂災害時には土砂災害警戒区域外の「こうべ小学校」へ避難するように指定されているため、このような周知が住民に十分に伝わっていないことがわかった。

3) 北野地区の今後の防災対策に関する調査

観光地と住民地として防災対策に必要なもの、商業施設と連携のとれた防災の取り組みの実施などについて、3問の選択式問題と1問の記述式問題を行った。「今後の防災対策の取り組みとして、商業施設と一体となった防災対策を実施したいですか」という質問の結果を図-5に示す。図-5より、約80%が観光・商業施設と連携をとった対策をしたいという回答を得た。また、自由記述回答からは、見知らぬ地へ訪れる観光客の避難時の問題を考える必要があり、観光地として自分たちが率先しなければならないという防災意識の高い回答も多くあった。

3. 考察とまとめ

土砂災害警戒区域内の居住者の方が区域外の居住者より土砂災害に関する防災情報をよく認識していることがわかった。その一方で、警戒区域内に住んでいる人でも警戒区域に指定されていることを認知していない人がいることや避難所の認識が十分に認知されていないことなどの課題も明らかとなった。今後は、これらの周知を図っていくことが被害軽減につながっていくと思われる。

北野地区は過去に甚大ながけ崩れや浸水の被害にあっており、現在は土砂災害警戒区域が指定されて

いる。住民の中には、観光・商業施設と住民と行政の三連携のとれた防災対策をとっていきたいと思っている人たちが多数いることから、北野地区は観光地として、土砂災害に関する防災を重要政策として取り入れる必要があると思われる。

今後は、アンケート結果のさらなる分析と急斜面かつ狭い道が多い北野地区において、緊急避難時にどのような経路を用いたら住民と観光客がスムーズな避難が可能になるかを検討し、それらを基に危険な場所や目印となる建物を記したハザードマップの作成を地域の人々と取り組んでいく予定である。

4. 参考文献

1)山根綾美ら：神戸市北野異人館地区における土砂災害に関する防災意識アンケート調査，平成27年度砂防学会研究発表会概要集B, pp.B-400-B-401, 2015.

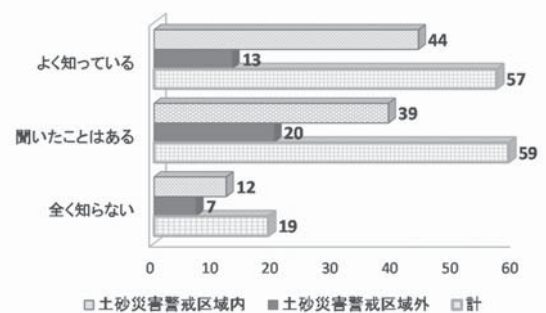


図-3 土砂災害警戒区域の認知度 (n=135)

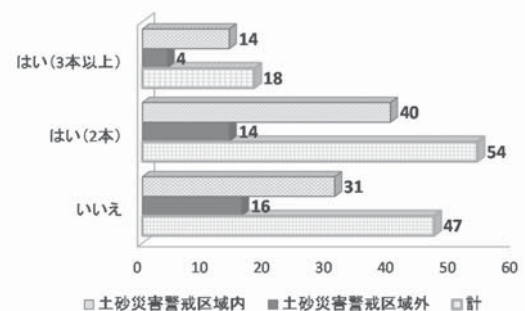


図-4 避難経路の所持数 (n=119)

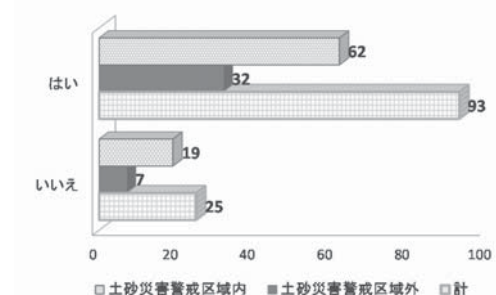


図-5 今後の防災対策の取り組み (n=118)